

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮



平成 25 年 (2013)
御鎮座 950 年祭

平成 24 年 (2012)

主な目次

御製にみる愛民の大御心……………	2 頁
大宮八幡祭り(秋の大祭)案内……………	3 頁
杜の話題……………	6 頁
大宮八幡の杜 秋も深まり……………	9 頁
初宮詣芳名・どんぐり通信……………	10 頁
大宮八幡祭り社頭風景……………	12 頁

大宮八幡祭り(秋の大祭)号【第94号】

<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>



大宮八幡祭り(秋の大祭):第27回神輿合同宮入り【9月16日】

去る7月30日は、明治天皇百年式年祭が皇居・宮中三殿の皇霊殿と京都・伏見桃山御陵で行われ、明治神宮でも明治天皇百年祭が厳肅裡に斎行されました。

天皇皇后両陛下と皇太子殿下には、百年祭に先立つて7月18日に明治神宮に御参拝になられ、28日は明治天皇百年祭記念式典が常陸宮同妃両殿下ご臨席のもと盛大に催されました。永年に亘り神宮にご奉仕させて頂いたご縁により、各々ご案内を頂き参列させて頂くとともに、ご奉迎の榮に浴させて頂きました。

尚、当宮でも8月1日に明治天皇百年奉告祭（中祭）をご奉仕させて頂き、ご聖徳をお称えしお慰び申し上げました。明治天皇様は御歳14歳（数え16歳）でご即位になり、若き新帝のご親政のもと明治維新の大変革が成し遂げられ、近代日本国家の礎が築かれました。先ず、天神地祇をお祀りして「五箇条の御誓文」をお誓いになられ、これを国是に万民保全の道とされ、この旨趣に基づき、国民も協心努力する様にとの大御心により、近代日本国家建設の基本理念とされました。

やがて明治22年、大日本帝国憲法（明治憲法）が發布され、翌23年、この法制に全国民の魂を入れるが如く、教育勅語が渙発されました。これは日本の建国以来、父祖より受け継いで来た道義道德を大切にすると云う理想を掲げて、全国民が国家と家のために今日に至るまで美事な成果を挙げることが出来たのは、日本のすばらしい国柄であり、教育の基本もここにあると、十二の徳目をお示しになり、自分も守っていくので、国民の皆さんも実践努力をして欲しいとの願いが込められています。西洋文明がどんどん移入されているときにあって、この様な和魂洋才を旨とした国民の道德、国民精神の涵養に大御心をお示し下さったのであります。また、明治の国難、日露戦争開戦の時も、誰よりも只管平和的解決の道を望まれて

四海兄弟（明37）
よもの海みなはらからと思ふ世に
など波風のたちさわがらむ
と、お詠みになつておられます。

やがて苦戦の末、日露戦争に勝利したとき、平和を希求されたこの御製に米大統領もいたく感動して、講和条約の仲介の労をとつたと伝えられております。開国をしたものの、幕末より西欧列強の植民地化政

策のもと、我が国も通商条約等不平等条約を余儀なくされておりましたが、日露戦争の勝利に依つて、ようやく条約を改正することが出来、世界の列強に仲間入りが出来て、国際法上認知されたと云うことであります。

御製にみる愛民の大御心

宮司 鎌日 紀彦

明治天皇様は、ご生涯で約十萬首と云われる御製（お歌）を詠まれておりますが、特に明治37年から38年にかけて多くの御製が残されており、国と国民の平安を願つてのご心労も大変なものであった事と拝察されます。

専ら「国やすかれ、民安かれ」とひたすら国と国民の安寧を祈つて下さっているご存在でもありました。かつて明治5年から18年にかけて、「六大巡幸」として、今日の様な新幹線も無い交通不便な時代に、全国の各地方の事情や国民の生活をご視察になられ、暮しの向上を願い、励まされて来たことも、国民の上を思い、愛民の大御心から発せられたものと拝察されます。

また、歌御会始は古くから宮中で行われていた儀式の一つで、その起源は平安中期の村上帝の御代とも鎌倉初期の後鳥羽帝の頃とも云われておりますが、鎌倉中期の龜山帝の頃より年の始めの歌御会となつた様であります。それも江戸末期には



中断していたのを明治2年明治天皇様が復興され、明治7年には一般国民の詠進が認められ、12年には一般国民の詠進歌より優秀作が選ばれ、披露されております。

をりにふれたる（明39）
うたはせてきくぞたのしき国民の
ことのはひろく召し集めつつ

天皇様は、詠進歌を年の始めに直接国民の声として聞くことが出来ることを、大変楽しみにしておられる様子が拝察される将に愛民の御製であります。

をりにふれたる（明40）（類歌）
しきしまの道をこしもいはふかな
民のこばをあまたあつめて

歌（明42）（類歌）
国民のこばの花をあつめみる
年のはじめぞたのしかりける

因みに、大正15年「皇室儀制令」の制定により、歌御会始は「歌会始（うたのかいしはじめ）」と呼ばれるようになり、昭和3年最初の歌会始が行われ、その伝統と精神は、平成の御代の今日尚継承されていることは有難いこととございます。

いよいよ明年は、第六十二回神宮式年遷宮が行われます。神宮では着々とその準備が順調に進捗されております。この年は、当宮でも御鎮座九五〇年式年祭の佳節の年であります。

神祇（明43）
わがくには神のすゑなり神まつる
昔の手振りわするなよゆめ

多くの氏子崇敬者の赤誠籠もるご奉賛を得て記念事業を完遂させ、父祖伝来の氏神信仰を継承して、広大無辺な八幡大神様のご神威発揚に努めて行かねばならないと、この御製を拝し、覚悟も新たに致しているところであります。

その前年に当たる今年の大宮八幡祭りも間近くなつて参りました。昨年より頭子6地区より9基の御神輿の宮入りとなり、ご社頭には第27回神輿合同宮入りが賑々しく神輿振りが繰り広げられます。聖なる大宮八幡宮の杜は熱気に溢れ、神輿を担ぐ人々も、陪観の人々も興奮の坩堝と化し、八幡大神様と共に神人一体・神人感応の境地を体感して頂けるときでもあります。神々の霊妙な波動と心の廻りを感じて頂く感動のときであり、将に城西随一の神輿振りは圧巻そのものであります。

今年も、大宮八幡祭りに多くの氏子崇敬者の皆様にお詣り頂きますようお願い申し上げます。（平成24・8・2記）

東日本大震災復興祈願

大宮八幡祭り(秋の大祭)

例祭・氏子奉幣祭、第二十七回 神輿合同宮入り

明平成25年は当宮が康平6年(二〇六三)、源頼義公・義家公により京都の石清水八幡宮を勧請、この大宮の地にご創建されてより御鎮座九五〇年を迎えますが、この佳年を前に大宮八幡大神のご神徳の愈々の発揚を祈り**大宮八幡祭り(秋の大祭)**が9月14日より17日の間、斎行されます。

15日夕刻、宵宮祭奉仕の後、翌16日午前10時より神社本庁より献幣使ご参向のもと**例祭・氏子奉幣祭**を斎行。東・和田西・松ノ木の氏子6地区より捧げられたご浄財が氏子幣として大前に献ぜられ、秋の稔りへの感謝と皇室国家の安泰、そして東日本大震災の復興が祈念されます。また、この日午後6時よりは**第27回神輿**

合同宮入りが執り行われ、氏子6地区全9基の神輿が神門内に参入、威勢のいい掛け声と共に神輿振りが行われ、境内は熱気と興奮の坩堝と化します。

その他、15日には小笠原流宗家による弓の神事三三九手挟式がご奉仕されるほか、野点茶会や舞楽、杉並太鼓演奏など期間中境内は参拝の方々に賑わいます。



第27回神輿合同宮入り

大宮八幡祭りのハイライト、神輿合同宮入りが16日夕刻より行われます。

八幡前通りに集結した神輿9基は、午後6時木遣りの音頭を合図に出発。夜店で賑わう表参道を渡御し、7時15分頃より神輿が次々と神門を潜り大前に参入、担ぎながら社殿前所定の位置に付き、全9基が揃ったところで一斉に神輿振り。

その担ぎぶりは正に圧巻で、城西随一とも云われ、境内は興奮の渦に包まれます。



大宮八幡祭り期間中の祭事

神賑行事

菊被綿神事	9月8日夕刻	弓道奉納射会	9月2日
神輿神霊入れ神事	9月14日	第14回菊被綿飾り	9月9日～17日
若宮八幡神社 例祭	9月14日	奉納書画行燈	9月9日～17日
白 幡 宮	9月14日	献燈提灯	9月9日～30日
各神幸所清祓・宮司巡拝	9月15日	大宮幼稚園 園児神輿宮入り	9月14日
宵宮祭	9月15日	小笠原流三三九手挟式	9月15日
例祭(献幣使参向)	9月16日	大宮幼稚園 園児民謡踊り	9月15日
氏子奉幣祭	9月16日	方南エイサー踊り	9月15日
第27回神輿合同宮入り	9月16日	杉並太鼓	9月15日
神輿神霊返し神事	9月17日	高井戸囃子	9月16日
後朝祭(直会ノ儀)	9月17日	舞楽(佼成雅楽会)	9月16日
		町内神輿渡御宮入り(昼間)	9月16日
		スカウト神輿宮入り	9月16日
		スカウトバザー	9月16日
		野点茶会	9月16日
		盆裁展示会	9月16日・16日
		第34回献華いけばな小原流展	9月15日・17日
		露 店「百二十店」	9月15日～17日

第12回十五夜の神遊び

本年は、十五夜の9月30日(日)に、当宮鎮守の杜で中秋の名月を愛でる、第12回目の「十五夜の神遊び」が斎行されます。

当日、夜の帳も下り始めた夕刻午後6時より先ず献灯神事が行われます。ご参列の皆様と俱に社殿前に並べられた「一〇〇基」を超す竹燈に火を灯し、次いで社殿で祭典が執り行われます。

その後、竹燈の火灯り揺らぐ中、神楽殿にて、雅楽と神楽舞を奉奏。そして、午後7時より月の音舞台として、「いちむじん(宇高靖人氏と山下俊輔氏)」によるクラシックギターの奉納演奏が行われます。

「月見の宴」のご案内

清涼殿では、「十五夜の神遊び」に因んだ特選料理『月見御膳』をご賞味頂く「月見の宴」を月の音舞台奉奏後(午後8時頃より)開催します。

名月を愛で、古式ゆかしい雅楽・神楽の調べやクラシックギターの演奏をお楽しみ頂いた後、十五夜の雅と幽玄の余韻の中、「月見の宴」をお楽しみ頂きますようご案内申し上げます。

定賓に各次締切りとなりますので、お早めにお申し込み下さい。

※雨天も「十五夜の神遊び」「月の音舞台」は行われます。

お申し込み・お問い合わせは

大宮八幡宮 清涼殿まで

〇三(三三二) 七五二五

【月見御膳】

◎御神酒付

お一人様 5,900円(税込)

『月の音舞台陪観指定席』含む

限定1000名



どなたでもご自由にご陪観頂けます。月明かりにすだく鳴虫と笛の音に耳を傾けながら、自然の豊かな神苑で雅と幽玄にひたる至福のひとつときをお楽しみ下さい。



第14回菊被綿飾り

重陽の宮中行事「菊被綿」が9月9日より17日の間、清涼殿ロビーに展示されます。古来より菊は破邪延寿の力を持つと信じられ、菊被綿は9月9日の重陽の節句の行事として、平安時代以降行われてきました。

当宮では8日夕刻、菊被綿神事を斎行。拝殿向拝下に並べられた菊に巫女が三色の真綿を被せ、翌9日朝に露を含んだ菊被綿が御日供祭にて神前にお供えされ、その後ロビーにて展示されます。



献燈提灯奉納のご案内

大宮八幡祭りの期間中多くのご参拝の皆様方をお迎えするに当り、当宮社頭にご芳名(社名)を入れた献燈提灯を掲出させて頂き、賑々しくお飾りさせて頂きます。

つきましては、左記によりご献燈を賜りたくお願い申し上げます。

記

掲出期間 9月9日から30日まで
初穂料 一燈 一〇,〇〇〇円
申込締切 9月2日(郵送は1日必着)

戌の日詣りは

子育八幡さまの当宮で

安産祈願のご祈禱を!

※戌の日以外でも随時お受けしております

ご祈願の方には安産腹帯(岩田帯)と共に、へその緒で結ばれたお母様とお子様健康に「出産の時を迎えられますように」の願いが込められた「母子緒守」と「安産祈願絵馬」を特別に授与しております。



戌の日早見表

(平成24年9月~平成25年1月)

9月	10日(月)	22日(土)
10月	4日(木)	16日(火)
11月	9日(金)	21日(水)
12月	3日(月)	15日(土)
1月	8日(火)	20日(日)
		27日(木)

は大安の日です

毎月1日 朔旦祭

毎月15日 月次祭

(どなたでもご自由に
ご参列出来ます。)

毎月・お朔日参りを

致しましょう

清涼殿改修工事に着工

当宮では、明平成25年が御鎮座九五〇年の式年に当たることから奉賛会が結成され、記念事業の推進に取り組んでおりますが、この度の第一期事業の一部として清涼殿ロビー等内装改修工事に着手。去る7月16日、清涼殿内装改修工事起工清祓式が斎行されました。

この度の

工事は結婚式場清涼殿の一階のロビー・階段のカーペット張替工事と「亀の間」他内装の改修。



賛会・工事関係者等が参列。先ず清祓の儀が行われ、工事各箇所が大麻・切麻で祓い清められました。

次いで宮司、五本木奉賛会実行委員長、(株)アルセッド建築研究所、(株)渡辺富工務店、(株)川島織物セルコンの各工事関係者が玉串を奉りて拝礼、工事の安全と無事竣工をお祈りしました。

早速翌日より工事が始められ、8月末日には竣功、9月1日よりリニールオープン予定です。

平成25年
御鎮座九五〇年記念事業のお願い

緑豊かな都心の杜に御鎮まりになり、氏子崇敬者の心の故郷であります当宮は、来る平成25年御鎮座九五〇年を迎えます。

この意義ある式年の佳節に当たり、私共の遠い父祖の代より氏子の人々がその時々、ご神恩に感謝しつつ赤誠を尽して宮々と努力され、鎮守の杜に相応しくご社頭を整備して今に残して下さっている様に、私共も先人に見習い、これから続く子や孫の爲にも意義ある記念事業を実施し、受継がれて来た尊い伝統を次世代へ継承して行きたいと思いを新たに致すところであります。

つきましては先に奉賛会を設立し、御鎮座九〇〇年以降の境内整備の集大成と位置付け、御社殿周りのバリアフリー化を中心に記念の諸事業を進めて参りたく存じます。

時節柄洵に厳しい時ではあります。が、何卒本事業が達成されますよう本会の志すところを十分ご賢察賜り、大宮・方南南・方南北・和田東・和田西・松ノ木の各6地区の氏子の皆様を始め、崇敬者各位の格別のご篤志を仰ぎ絶大なるご奉賛を切に懇願申し上げる次第でございます。

平成24年吉辰 大宮八幡宮奉賛会

記念事業の主な概要

◇第二期事業

- 一、御社殿向拝バリアフリー（北側）整備
 - スロープ設置工事
 - 一、御社殿向拝階段（南・北）屋根掛け工事
 - 一、御社殿向拝階段手摺り（南・北）増設
 - バリアフリー整備
 - 一、登り高欄（檜）及びネット手摺り設置工事
 - 一、表参道石階段手摺り（之鳥居・乏鳥居）バリアフリー整備
 - 高欄風手摺り（アルミ）及びネット手摺り設置工事
 - 一、御社殿内拝殿帳帳・外拝殿及び神門門帳の新調
 - 一、表参道大幟ポール（二対）設置工事
 - 一、南参道鳥居扁額の補修工事
 - 一、弓道場振武殿改修工事
 - 一、結婚式場清涼階段バリアフリー整備
 - 階段クネット手摺り設置工事
 - 一、結婚式場清涼殿「亀の間」改修工事
 - 一、結婚式場清涼殿ロビー・階段カーペット張替工事
 - 一、祭典費・記念品費・事務費等諸経費
- 合計九〇〇万円

◇第二期事業

- 二、結婚式場清涼殿バリアフリー整備
エレベーター設置工事
トイレ改修等バリアフリー付帯工事

総事業費一億五三〇〇万円

ご奉賛金の勧募

一口（壹万円）以上お願い致します。
尚、五口以上ご奉賛の方々には記念の石碑いしぶみ

にお名前を刻し永久に保存させて頂きます。
また、一口以上ご奉賛の方々には芳名板（板札）
にて受付後、随時お名前を掲出させて頂きます。

平成25年御鎮座九五〇年奉祝神事日程表

◇御鎮座九五〇年 式年大祭

4月29日(月) 午前10時 昭和祭

5月1日(水) 午前10時 朔日祭並躑躅育木祭

3日(金) 午前10時 式年大祭第二日ノ儀

午後1時 式年大祭子供の祭・稚児行列

4月(土)午前10時式年大祭第Ⅱ儀(尚武祭)

5日(日)午前10時式年大祭当日祭(献)

6日(月)午前10時式年大祭終了奉告祭

午後2時 式年大祭植樹祭

26日(日) 御鎮座五〇年奉祝小笠原流流鏑馬神事

◇御鎮座九五〇年 式年奉祝大祭

9月13日(金)午前10時 神輿神霊入れ神事

午前11時 若宮八幡神社並白幡宮例祭

14日(土)終日 神幸所巡拝・清祓

午後6時 宵宮祭

15日(日)午前10時式年奉祝大祭例祭・氏子奉幣祭

15日(日)午後6時 第28回 神輿合同宮入り

16日(月)午前10時 神輿神靈返し神事

午後5時 後朝祭

杜の話題

明治天皇百年奉告祭斎行

今年には明治天皇が崩御されてより百年にあたり、当宮では8月1日明治天皇百年奉告祭を執り行いました。明治天皇は、御年14歳で第122代の天皇に即位され、明治維新の大業を成し遂げられて、近代日本の礎を築かれましたが、明治45（一九二二）年7月30日に59歳で崩御されました。幕末・維新を経て世界の近代国家へと大きく躍進した明治の御代は、国家の存亡と国内の改革に伴う難問が山積する中、明治天皇の御親政のもと、和魂洋才を旨とした国民との惜しみない努力により発展をしました。日本人が美徳とした高潔・勤勉で道義心豊かな精神が、日本民族の活力となり、その強い志が時代を動かしたのです。



東日本大震災復興祈願

わかば祭り（春の大祭）斎行

木々が新緑に染まる中、恒例のわかば祭り（春の大祭）が5月3日より5日の間斎行されました。春祭初日の3日午後より第二日ノ儀こどもの祭（稚児健康祈願祭）に、稚児装束を身に纏った47名の稚児らも参列し、無事の成長を祈念致しました。その後、あいにくの雨天のため行列は中止となりましたが、清涼殿2階にて佼成学園吹奏楽部による演奏会が行われました。翌4日には第二日ノ儀斎行の後、第12回挙式者の集いや若葉inお

両陛下御渡航安泰祈願祭を斎行

天皇皇后両陛下にはエリザベス女王即位六十年祝賀行事への御参列のため、去る5月16日より20日の間、英国を公式訪問されました。当宮ではこれに先立ち5月15日午前、天皇皇后両陛下下英吉利御渡航

行幸安泰祈願祭を宮司以下祭員奉仕により中祭にて斎行、併せて月次祭を奉仕しました。また御帰国日の20日には還幸啓奉告祭が斎行されました。



みやの奉納演奏。

次いで当宮みどりの会の主催にて植樹祭が執り行われました。端午の節句の5月5日には当日祭（尚武祭）が斎行され、多くのご参列の皆様と共に、皇室国家の安泰、五穀豊穡、そして東日本大震災の復興を祈念致しました。



このほか期間中表参道では当宮新緑の風物詩「大宮八幡植木市」を開催。苗木や色とりどりの花々を求める方々が賑わいました。

第13回裏千家献茶式

第13回「茶道裏千家献茶式」が去る5月19日行われ、第16代お家元の裏千家今日庵千宗室宗匠が直々に献茶の儀を奉仕され、大前に濃茶、薄茶が献ぜられました。神域では裏千家淡交会東京第六西支部により奉賛添釜が催され、多くの方々で賑わいました。また第七西支部のご指導による園児茶席では大宮幼稚園園児らがお点前を披露しました。



大震災復興祈願 大宮八幡宮の杜薪能

春宵の一時、人々を幽玄の世界に誘う第9回「大宮八幡宮の杜薪能」が去る5月12日夕刻、当宮神域で催され、500余名の方々が陪観されました。大宮八幡宮の杜薪能はNPO法人「杉並で能楽を楽しむ会」の主催、当宮の共催、杉並区教育委員会の後援により行われ、野村四郎師ら観世流一門によって奉仕されました。

夕刻6時、境内特設舞台が祓い清められたあと火鑽神事が行われ、古式に則り熾された浄火が松明から篝火に移されたあと、舞囃子「小袖曾我」、狂言「鬼瓦」、能「藤戸」の各一番が演じられました。

平家物語から題材を得た能「藤戸」。源平の時代、藤戸の合戦で活躍した佐々木盛綱の華々しい戦功の裏で、理不尽に殺された男の恨みとその母親の悲しみを、静かに激しく舞う…。これは昨年の東日本大震災の被災者の無念の思いが、この老女や漁師の気持ちに通じるのではと、野村氏が犠牲者への鎮魂の思いを込め演じられました。陪観者の大きな共感を呼んだ演出となりました。



ホワイトロータス清掃奉仕

去る5月27日、ホワイトロータス東京の会員12名が、当宮境内の清掃奉仕を行いました。

「縁起めぐり」という社寺を巡る活動を行ったり、ボランティア活動として清掃活動等を行っており、その第二回目の活動として当宮へ申し出があったもの。

当日は参拝の後、二手に分かれて境内を掃き掃除。約1時間半の活動を行い、神職より由来と境内の説明を受け、解散となりました。

立正佼成会鹿児島教会参拝

立正佼成会鹿児島教会の皆様が5月31日、当宮に参拝されました。西村友理子団長以下40名は同日午後に来宮、昇殿参拝後、神職の説明を受け、境内を散策されました。

杉並区宗教者懇話会

杉並区の各宗教者が各々の立場で協力し合い、相互理解を深め、宗派を超えて世界平和のために祈り貢献することを目的とする杉並区宗



教者懇話会。6月27日当大宮八幡宮で春期講話会が催されました。会員42名は社殿での正式参拝の後、記念撮影。次いで、清涼殿にて「古事記編纂一三〇〇年」と題し、宮司による講話が行われました。

古事記の成り立ちや代表的な神話を語り、特に大國主命の伝承より「神も成長する」と、古事記に込められた古代日本人の精神を明らかにしました。

大祓神事 古儀に則り斎行

一年の上半分の罪穢を祓い清める夏越の大祓が6月晦日30日夕刻斎行されました。

斎庭の神門前表参道には氏子崇敬者等約500名が参列、大祓詞宣読のあと自祓の儀を行い、参列者は形代で体を撫で、息を吹きかけました。

天地の祓について茅の輪神事が行われ、素戔鳴尊と蘇民将来の故事に因んで左右左と茅の輪を三度くぐって社殿に参進。次いで大祓詞浄書奉納奉告祭が斎行されました。

尚、午前中は、幼稚園の年少組親子、年中年長組の2回に分けて、園児の大祓式が執り行われました。



七夕の神遊び・乞巧奠飾り

平安の七夕行事、第14回「乞巧奠飾り」が7月1日より15日の間、清涼殿で催されました。

乞巧奠は中国の織姫彦星や日本の棚機つ女の伝説から平安朝より宮中を中心に学業技芸の上達を願う七夕行事として広く行われてきたもの。短冊の元となった梶の葉が下げられた注連縄の内に筆硯や雅楽器などをお供えして清涼殿ロビーに乞巧奠飾りを再現。



七夕当日の7日午後6時には、色とりどりの七夕飾りの大笹竹が設えられた社殿にて宮司以下祭員奉仕により七夕の神遊び（技芸上達祈願祭）を斎行。管絃「陪臚」、神楽「豊栄舞」が神前に奉奏されました。

次いで神門前に進み、五色布、梶の葉の下げられた乞巧潜りを左右左右とくぐる乞巧潜り神事を斎行。

そのあと清涼殿乞巧奠飾り前にて「雅楽の夕べ」が催され、雨天にも拘らず多くの方々に「五常楽」「越殿楽」「浦安舞」などをご陪観頂きました。尚、雅楽の夕べは最終日の15日にも第2回目が開かれました。

りんどう会だより

当宮敬神婦人会（りんどう会）では、わかば祭り2日目の5月4日、御鎮座九五〇年奉賛活動として銅板奉納の呼びかけを行いました。この銅板は御社殿整備に使用されるもの。当会では、御鎮座九五〇年に向けて今後も奉賛活動が行われます。



6月14日には会員総会を開催。総会後は小島富美子会員による「折り紙講座」が行われ、参加した会員は可愛らしい小物作りに熱中した様子でした。

又、大宮八幡塾「水無月書写会」が6月16日より24日の間、神社と共催で行われました。書写会は清らかな心を込め書写した大祓詞を神前に奉納し、大神様の大稜威を頂くもの。参加者50名の方々が浄書された大祓詞は30日、大祓神事に続き斎行された大祓詞浄書奉納奉告祈願祭で神前に奉納されました。

尚、6月28日には大祓の撤下品「福笹」を作成。大宮幼稚園園児が作った飾りを、一つ一つ丁寧に笹に取り付けました。約300体の福笹は大祓参列の皆様へ授与されました。当会では随時会員を募集しておりますので、ご入会希望の方はお気軽に事務局へお申し出下さい。

大祓形代流し旅行宮城へ

夏越の大祓で納められた形代を流し清める大祓形代流し旅行が7月20日、21日の両日行われ、今年は30名が参加して当宮と姉妹友好神社である宮城県岩沼市の竹駒神社を参拝しました。

20日には竹駒神社の参拝と秋保温泉名取川畔での形代流し神事を



実施。翌21日は、東日本大震災より一年余が過ぎ、様々な復興支援が進められおりますが、一人でも多くの方に現状を認識してもらおうとの思いを込め被災地を視察。

先ず亘理郡山元町の八重垣神社に向かいました。沿岸部の同社は天津波により社殿を始め全てを流失しましたが「鎮守の森を取り戻し、心を繋ぎとめる」と鎮守の森プロジェクトを立ち上げ、6月には日本財団との共催などにより植樹祭が実施されたとのこと。一行は同社にて全員で大祓詞を奉唱、慰霊と鎮魂の誠を捧げ、復興を祈念申し上げました。

そのあと松島海岸へ、震災にもよく耐えた松島を眺め、復興した海岸通りを散策しました。

納涼大宮天神こどもまつり

当宮夏の風物詩、「納涼大宮天神祭り」が今年も開催されましたが、第12回となった今年は特に、学業成就と俱にお子様の成長に祈りを込め「大宮天神こどもまつり」として2日間に亘り催され、今春発足した大宮八幡宮氏子青年会による模擬店も出て7月24日・25日の両日、境内は親子連れの姿で大賑わいでありました。



24日夕刻、今年より宵宮祭を斎行、区内の小中校や幼稚園、一般より寄せられた書画行灯414点に点灯されました。そして翌25日は午後5時半より境内大宮天満宮で宮司以下祭員により大宮天神祭を奉仕。次いでこどもあかりみこしが天満宮前より神門前広場まで渡御、わっしょい、わっしょいの可愛い掛け声が境内に響きました。この後、神門前広場では松ノ木小学校放課後クラブ「すきづぶ」により今年始めて行われたジャギリング。三つのカラーボールを交互に上げて取るパフォーマンスで盛大な拍手が贈られました。また、子供のミニ花火の集いも行われました。そして6時半より「杜のひびきin



「おおみや」として、和太鼓・響道宴氏、パークシヨニスト・大儀見元氏、鍵盤屋たけやん氏らによる奉納演奏に境内は熱気に包まれました。

第29回戦没者慰霊祭

終戦記念日の8月15日、第29回「戦没者慰霊祭」が清涼殿で奉仕されました。戦没者慰霊祭は当宮と当宮兼務社氏子区域出身戦没英霊329柱の御霊慰めのため、当宮戦没者慰霊祭実行委員会の主催により行われているもの。当日正午、全国戦没者追悼式に合せ黙祷を行ったのち、慰霊祭を斎行。護国の英霊に感謝の誠が捧げられました。



ボーイスカウト・ガールスカウト募集

ボーイスカウト 対象13歳以上
ガールスカウト 東京822団
スカウト 募集中

小学一年生から各学年ごとにいつでも入団できます

大宮八幡宮氏子青年会だより

全国氏子青年協議会の全国大会・加盟承認式が7月15日、宮城県は松島にて開催されました。今回承認され、全国氏青協への加盟となった大宮八幡宮氏子青年会。当会より野口末柄副会長、提箸事務局長が出席致しました。



この氏子青年会とは、神社を中心に集まった青年の組織で、お宮の発展に寄与し、地域の振興を進めることを目的としており、当宮青年会の初事業として7月24・25日の大宮天神こどもまつりにて模擬店を出店。焼きそば・揚げたこやき・かき氷にラムネ、そしてスパーボールすくい等に、店頭は夏休みに入ったお子さんたちで大賑わい。

24日宵宮祭のプレオープンですら、予想以上の盛況ぶりで翌日分まで売り切つてしまった為、翌朝は材料の追加の買い出しに行かないほど。25日当日も、前日以上に多くの参拝者で賑わい、会員らは初事業の成功を喜び合いました。



店頭は長蛇の列

大宮八幡の杜 秋も深まり

第34回杉並大宮菊花展

第34回「杉並大宮菊花展」が杉並大宮菊の会の主催にて10月20日から11月25日までの間開催されます。

夏の酷暑を乗り越え、杉並区内外在住の菊愛好家の方々により丹精込めて作られた数々の美しい菊の大輪が、また4月より毎月に行われております「菊の講習会」参加者の作品も併せて出品され、境内特設展示場に所狭しと飾られます。



秋の豊かな実りに感謝新嘗祭

勤労感謝の日の11月23日午前、新嘗祭が大祭式で斎行されます。新嘗祭は五穀豊穡を祈る春の祈年祭と一対をなす祭典で、新穀を神前にお供えて秋の収穫を



感謝するお祭り。天皇陛下には宮中神嘉殿にてご斎行、全国津々浦々のお社でもお祭りが行われます。

当宮幼稚園の稲田で園児達が育てた初穂を始め、氏子崇敬者や篤志家から寄せられた和稲荒稲の新米や野菜果物が大前に奉獻されます。

第22回杉並花笠祭り

当宮師走の風物詩、第22回「杉並花笠祭り」が12月8日に開催されます。杉並花笠祭りはサミット(株)、サミット・コルモと当宮の共催で、毎年12月第2土曜日に恒例で行われています。

当日は御社殿での開催奉告祭のあと、境内特設舞台で御神酒の鏡開きが行われ、午前午後の2回、山形県人会花笠踊り愛好会や地元商店会婦人部の皆様により花笠踊りパレードが実施されます。また表参道では山形の農作物や特産品の露店が出て、地酒や芋煮が振る舞われ、凡そ、3万人の参詣者で賑わいます。



神符奉戴式並びに大麻頒布

明平成25年の新春を前に氏子崇

敬者や全国の立正佼成会会員の方々が受けになるご神札をお頒ちする神宮大麻頒布式並びに氏神社神符等奉戴式が11月初旬斎行されます。御神前にて大宮大麻、大宮三宝荒神等当宮御神札に御神霊をお遷しし、伊勢の神宮大麻と併せ頒布始めの旨を八幡大神様にご奉告申し上げます。

年頭に当たり、ご家庭や事業所に新しいご神札をお祀りされて清々しい新年をお迎え致しまして。尚、今までお祀りされていた古神札等は、年末より新年10日過ぎ頃まで、境内の古神札納所にてお預かりしております。一年間お守り頂いた感謝を込めてお納め下さい。

秋の大祭後の主な祭典行事

10月20日	第34回杉並大宮菊花展
11月25日	月次祭並七五三祝祭
11月15日	新嘗祭
11月23日	第22回杉並花笠祭り
12月8日	天長祭
12月23日	大祓(年越大祓)
12月31日	除夜祭
平成25年	
1月1日	神能「翁・厄除開運大祈禱
1月2日	歳旦祭
1月3日	小笠原流幕目の儀・大的式
1月15日	元始祭
1月15日	古札焼納祭(どんど焼)

結婚式挙式者芳名(敬称略)

(平成24年4月1日～平成24年8月31日)

鈴木源啓・亜希子 黒田清司・佳佳
満留伸行・沙織 菅原竜也・麻有
梅田哲史・佳菜子 酒井真人・恵
羽田野健太・菜緒子 石橋訓宏・広美
一階尊雅和・名美子 田中 強・友理子
遠藤暢雄・温子 松倉恒一・慶子
成田公司・素世 稲田 扶・裕美
渡邊巨洋・安雲 長崎祐三万里絵
安部大輔・千晶

平成25癸巳年

「新春初祈禱」のご案内

当宮では、御鎮座九五〇年、平成25癸巳年の新春にあたり、皆様のご健勝・ご繁栄をお祈りする新春初祈禱を1月1日午前0時より連日随時ご奉仕させて頂いております。11月末頃より受付致しておりますので、授与所へお申し出下さい。また企業や団体関係の皆様には、仕事始めの1月4日より、ご参拝日時のご予約を承っております。年の初めに、社員・ご関係の皆様お揃いで八幡大神様の御神徳を戴かれ、新しい年が幸多きご発展の年となりますようお祈りさせて頂きます。

初宮詣芳名(敬称)

(平成24年3月27日〜平成24年7月25日)

お子様のお健やかなご成長をお祈り致します

本領太陽	鹿倉佑真	山田倫太郎	三坂紘矢	堀江晃正	河野結衣菜	高橋歩	星島隆太
加藤小陽	新喜陽斗	小林風花	利根川楓	三嶋拓海	木下詠野	内田隆誠	荒井夏
本橋楓真	三浦蒼天	大槻朱莉	野村直生	金子由佳	片柳純斗	内藤凛	長谷川嘉一
日熊莉愛	芝山慧	金子未歩	宮本旺志朗	高橋壯史郎	佐藤海咲	伊東空海	新井里彩
岸田由衣	穴倉遙	岡田澪杏	奥川大和	鈴木大晟	生川寧々	安藤泰樹	桜庭和花
古賀希実	濱田晃太郎	市川耀	小川裕貴	中辻そのの	飯塚一誠	松原知輝	富士勘太
福島榮愛	副島和佳	三塚大稜	寺島悠真	薄井祥多	芹澤瑞季	伊藤颯汰	藤田健吾
椎橋咲和	新田	布井雄之甫	前田幸亮	中原惇晴	高原愛莉	樋口詩乃	山田咲歩
山根世夏土	岡村莉子	青山健太郎	岩田凌聖	杉本悠莉	前川文香	西山陽菜	河村幸多朗
ロリエル	永森映	西垣内羽実	福田理乃	町田蒼桜	吉沢光生	松本梓	誠太郎
古村健	深川陽生	カルプレス	比永瑠	石井那奈	神谷和香奈	酒井航	鈴木杏理
長谷川薫子	柴田千和	比永瑠	佐藤佑	細谷柚	阿部菜葉	三木陽菜乃	小熊縁
春日空花	久世葵	栗原菜穂	相川創志	鈴木陽葵	金子豪志	高橋準平	宮野聖也
近藤潤弥	矢部恵麻	川瀬健琉	赤松里々花	竹達翔琉	伊藤遙花	桂步夢	関根弘敏
松崎理央	新井雪愛	山本羽琉	天野麻友	有元美結	萩原祥太	河田母枝	森連太郎
塩川明香里	松井杏慈	石沢悠人	堀口慎太郎	雀見理紗	兼子陽向	加藤りお	紀平佐和子
秦悠馬	小林碧	乙部美優	光瀬裕理	佐野正翔	片岡唯奈	兒玉和花	楠本峻大
高橋こころ	橋本周	松木咲瑛	荻雪乃	五十嵐諒太	比毛柊吾	相田眞秀	難波冬偉
河野温史	長島湊翔	服部樹	深井映志	境彩葉	家高葵	佐藤弘騎	河崎伶奈
鳥羽美宇	中井佑人	若林惟斗	竹内佑晟	佐治春隆	上田みらい	中津杏奈	松浦巧実
丸山玄太郎	ボツア	首藤日々希	高橋奈々	石井寿臣	遠藤愛結	倉地萌音	安斉力輝
小山千渥	オリビア章	山本航成	青木盛高	草深權生	奥山桜子	青木鴻志郎	櫻井栄心
堂山侑玖	上田知佳	後藤朝実	薄井円	岩橋凜佳	栗田愛梨	大木唯菜	阿部優佑
池邊真空	松本蒼以	原遼太郎	オニール愛理	池田花	大野珠暖	矢崎朱理	山木ひなた
入野隼	吉田龍生	坂本伊織	工藤沙彩	石原美来	五十嵐風	西岡享佑	林学輝
坂巻湊太	秋永貴慈	丸山凌雅	加藤華	室田ちはる	福澤みつば	清水将太	森川樹季
柳澤梨子	持田実結花	松湖のどか	大松まひろ	小林美晴	土屋篤生	加藤百和	大矢沙和
寺尾隆佑	森華晟	北田琳花	坂野陽優	大橋悠	桑原曜知	石原芽芽	酒井隆宇
小川薫	内藤陽美	高橋翔	佐々木愛留	安川理多	渡部駿	片岡義晴	水野彩未
高柳葵	池田寛人	森真由香	土方宣人	金子朔也	村田愛莉	今林ちほみ	田中一颯
加藤伶菜	菊池素直	名取龍希	小川優花	大湾朝亮	楊木田和希	相模竜雄丸	小山萌依
椎橋奏多	小川拓串	中村恵菜	徳嶋拓人	北川諒真	藤本理紗	佐藤双葉	宮川一杜
本領太陽	鹿倉佑真	山田倫太郎	三坂紘矢	加山悠陽	平野童	村田昊大	鶴優太
				二神陸	田中朔依	田中舞依	渡邊優太



頂いた時に
折ったら良
いか、自分
な気持ちで
する際、ど
詳しく話を
する際、ど
な気持ちで
折ったら良
いか、自分
頂いた時に

夏越の大祓

年長組では、毎年6月になると「福笹」を飾り付けるための折り紙を折ります。この福笹とは、6月30日に行われる夏越大祓にご参列の方々へお渡ししている竹笹のことです。これらに子供たちの折った「やっこさん」「風船」「かささぎ」などが飾られています。

園児らもこの大祓に参列するにあたり、「お友達の話の聞けなかったことを許して頂く」「もう悪いことはしないという気持ちで茅の輪をくぐる」と説明を受けており、儀式的意味は理解しているものの、福笹に触れる機会は一度もなく、これから自分たちが作る折り紙が、どの様に使われるかも分かっていませんでした。

そこで大祓について詳しく話をする際、どんな気持ちで折ったか、自分が頂いた時に



嬉しいと思うものはどんなものかを聞いてみました。「心を込めて折ってくれていると嬉しい」「丁寧に折ると良い」「来てくれた人に幸せが来ますように!!」など、色々な意見が出て子供たちの大切な行事のお手伝いをさせて頂くという自覚ややる気が感じられました。

角や線がずれない様に集中して丁寧に折る姿や、少しでもずれたり間違えると不安な表情になったりと、でもそれだけ真剣なんだな、参列した人の喜ぶ顔を想像しながら取り組んでいるんだなと思うと、こういった機会はとても有り難く、神様に感謝の気持ちで一杯になりました。

朝日子舞やお田植え、どんど焼きなど、他では出来ない経験をたくさんしながら大きくなる大宮っ子。今回の経験も、来て頂いた方をおもてなしする貴重なものとなったことでしょう。

実際に参列の方々の反応を直接見ることは出来ませんが、子供たちの思いが届き、たくさんの方の幸せを感じて下さると嬉しいです。

教諭 真藤 愛

是枝環	下河連壮	川田結大	蛭川莉々亜	田中大河	鄭遼一	青田唯人	笹井七海	足立凌峨	山口翔大	西嶋敦美	吉永啓佑
森田啓生	福原舞花	朝海謙吾	石井玲仁	北山慧	桃井杏奈	横山弥太郎	小尾健人	原田恵伍	冠城佳示	高村健羽	米津政智
澤田健志	長橋峻叶	小笠原遙哉	荒井辰士	秋山実咲	谷川幹太	藤森重美	川上諭月	小柳香乃	齊藤温	戸河里健	林紗千子
武士俣咲	橋本蒼志	金田杏	西尾日菜	遠藤心菜	野口嶺	堀内新樹	落合海斗	バルディ	中村陽菜	岩阪哲也	鶴岡拓真
杉本一真	高田桃花	今村煌我	中村陽詩	藤枝れい	久保修一	竹内レモナ	木下結月	クロエ葵	林利央	御厨柚衣	加藤字斗
久保田雄大	由井秀昌	三宅一寧	大淵鈴一郎	宇川直太	松本佳菜子	笠井葉月	天野佑咲	星尾眞ノ輔	橋田莉央	田中大祐	番匠梨緒
上村風歌	鈴木琴子	星野翔太	千原鈴汰朗	安田悠真	福田璃音	渡辺煌生	永吉芽衣	森山理晴	樋口恵太郎	入枝奈夢	古川愛理
越山正英	高橋優悟	松浦創	西村杏	伊谷拓実	宮内杏珠	長谷川真哉	末廣璃菜	鳥居梓	鈴木葵	佐藤勇	齊藤七菜
井出明里	佐野悠翔	杉田琉誠	佐伯和咲	佐藤奏太	成田小春	山岸勇翔	松下寿樹	小村淳平	中村瑠璃	高橋獅穂	中沢爽大朗
中村航大	金子恵美梨	宮久保陽大	西村咲良	鈴木	小野諒史	恩田光	内藤啓	村田龍星	小川創大	吉村優希	星野智月
安藤璃紗	アポロ航大	植村勇仁	小泉達之介	茅根煌太	山本伊織	中島慧伍	加賀雄也	上田隼太	福原杏梓	石原坂崇輔	張谷有
下山悠莉	小谷一仁	堀内海松	櫻井葉日	久世陸輝	高橋幸之介	佐藤匡弘	後藤結愛	掛川葉琉	栗山彩愛	後藤彩音	北原紫織
加藤隼人	中野晴仁	上村心優	小泉達之介	藤川優	飯嶋慶晃	池田隆晃	後藤結愛	佐藤ひなた	平井遙基	山口和乃	小谷某緒里
高木隼颯	成瀬恭太郎	村岡日祐伍	大西優衣	野村愛真	清水優太	池田光希	荒木智羽	佐々木優	渡邊結人	田邊陽翔	森田煌右
石黒陽	中村壮	勝山智貴	山本超太	橋野帆菜美	丸橋乙葉	岩間妃成乃	小竹瑛介	石引聖菜	草野達生	東優唯	中澤佑仁
鶴飼理名	熊田多恵	滝沢実桜	小関拓人	福岡大聖	山之上遼	柳川葵来	伊藤朱梨	古海利佳	岡本美菜	白井奏人	大野颯真
西川昇吾	藤田彩恵	小竹紗矢奈	笠原志月	関口蘭	油谷優菜	堀内陽人	笈田統真	森優津希	岡本悠希	金子京太	森田悠生
三迫雅治	石黒圭吾	柳沢諒	福田りん	神成優希	奈良億人	森内文子	石館細	佐藤美海	峯村栄太	米田唯花	酒井剛
小山紗季	武藤妃咲	矢引咲良	山田佳右	河村美翔	工藤晴二郎	澤田陽麻	本島遙真	加藤隼大	森本治平	水野真優	
宮川結花	櫻場春都	濱田空来	横平ゆいか	田中紗智	西生智建	金津修吾	今枝瞭太	緒方総次郎	田中悠翔	中出陽菜	
牛山陽人	鈴木春乃	高橋悠斗	窪田光莉	酒井零治	岩崎仁瑚	伊藤舞	今井悠	大泉桜	柘植陽芽	麻上舜ノ介	
中梨音奈	岡村穂璃	上條蒼空	山口美月	岩本悠亜	小野寺悠	佐藤美陽	渡邊健太	鶴田凱士	立花陽香	宇野哲平	
深澤豪志	平田茉莉依	阿部明莉	石倉朋樹	佐藤幹太	高野龍之介	植木那奈子	渡辺頌理	柴樹之介	谷集成	田中隆惺	
原田実侑	保高心美	高橋寧音	木許全	白井楓	牧田聖丸	孕石希美	伊藤四葉	森久保美終	林夏音	金谷咲希	
飯島海斗	尾崎咲希	杉田智哉	林新大	太田彩那	尾崎凜々子	牧野由弦	野々村昌	小貫日奈多	篠原夏菜	田中敦喜	
田中映留	長井結進	関本莉菜	齊藤大誠	西條颯也	丸岡眺	林建吾	望月凜音	鈴木梨央	小池珠華	日下部翼	
山崎凜空	安藤友香	飯田悠太	久野杏実	諫早葵	吉田爽真	清水碧人	北林拓真	折間俊希	郡司陽光	日下太晴	
齊木梨々花	平山琉太	原田匠	中井航佑	古地結愛	小林加奈	川隅匠真	久保優祐	伊藤結	市川達也	柳川花凜	
篠原功	渡田芹那	小川怜	木村早希	堀場美月	村上駿斗	米澤潤	潤井結恵	比嘉くるみ	江本まひる	藤巻權太	
吉田ななみ	丸山暖乃	齋藤源	太田望結	遠見結香	石井寿	日野朱希	松本琉馬	田形真子	村山晴	土屋昂靖	
高橋周作	山下咲	小陽春花	井上奈優	坂元琴葉	小泉愛菜	大和田萌寧	駒場理視	宇野祐仁	加藤龍汰	三宅凜奈	
武田壮佑	古賀然久	蔡惠菜	池西陽佳	結城陽太郎	菊池那由太	村田望	沖平昂大	山本芽依	本多未来陽	渡邊珠彩	
風間一輝	笠井春佳	甲嶋連吏	吉井燦	長坂修門	萬歳結菜	若村悠	佐藤雄心	橋本祥	松本明理	貴島希	
小林知花	中村茉莉	南澤凜	黒岩咲	横溝沙紀	新井慈樹	菅根唯仁	河野智也	坂本健	竹内仁那	一山葵介	
萩岡美羽	関根理紗	山口智恵子	齊藤理人	大澤淳毅	西田樹史	村西佑羽真	片桐あおい	山岸佑丞	星野涼平	草深七咲	
城野龍音	久保かほ子	田邊知由	豊岡颯真								

お子さまの健やかな成長と幸せな未来をお祈りする七五三詣。晴れの日を迎え、お子さま自身もひとつ大人になったという誇らしさ、可愛らしさで胸を一杯にすることでしよう。だからこそ、大切な記念日を家族皆さまの大きな愛で素晴らしい一日にしてあげて下さい。

大宮八幡宮で全てをお決め頂ける展示ご予約会のご案内です。七五三のお祝い当日も同じ会場で実施致します。熟練のスタッフが参拝される皆様の大切な記念日をお手伝いさせて頂きます。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



七五三詣

七五三年齢表

七歳	女兒	平成18年生
五歳	男児	平成20年生
三歳	男・女児	平成22年生

※生まれ年と年齢は数え年によるものです。満年齢でお受け頂いても差し支えございません。

七五三レンタルプランご予約会

ご予約会日：毎日朝10時～夕方5時まで開催

大宮八幡祭り(秋の大祭) 9月14~17日

例祭・氏子奉幣祭 [16日 午前10時斎行]



神社本庁よりの幣帛をご神前へと供進



豊穰感謝と皇室国家安泰を祈念し祝詞奏上



赤誠籠もる氏子幣を神前に供え、拝礼



俊成雅楽会による舞楽の奉奏

第27回 神輿合同宮入り [16日 午後6時 大宮一丁目町会神幸所御発輿]



14日、各町会代表ら参列し神輿神霊入れ神事



江戸消防記念会第九区八番組による木遣り奉納



9基が揃って社殿前に宮入り

氏子町会神幸所

大宮地区

(宮元会神幸所)

大宮一丁目町会神幸所

方南地区

峰睦会神幸所

(峯栄会神幸所)

新栄若睦会神幸所

泉南睦神幸所

方南西神幸所

方南東神幸所(上)

方南東神幸所(下)

和田地区

和田睦会神幸所

和田敬神会神幸所

和田仲組神幸所

和田南神幸所

和田東神幸所

松ノ木地区

松ノ木睦会神幸所

奉納神賑行事



小笠原流 三三九手袂式 [15日]



大宮幼稚園園児民謡踊り [15日]



杉並太鼓の奉納 [15日]



裏千家 野点茶会 [16日]



献華いけばな 小原流展 [15~17日]



賑わう表参道 [露店: 15~17日]

大 宮 第94号
平成24年 秋の大祭号
平成24年9月1日発行
大宮八幡宮社務所

〒168-8570

東京都杉並区大宮2-3-1

電話 (3311)0105 FAX(3318)6100

Mail: info@ohmiya-hachimangu.or.jp